

稚内市におけるヒナコウモリ属の観察記録

佐藤雅彦

〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

Observational Record of an Unidentified Bat Belonging to the Genus *Vespertilio* from Wakkanai, Northern Hokkaido

Masahiko SARO

Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. An unidentified bat belonging to the genus *Vespertilio* was observed in an urban area in Wakkanai, Northern Hokkaido, in October 2011. This is the first record of the genus *Vespertilio* from Wakkanai. All of the records of *V. sinensis* and *V. murinus* from northern Hokkaido are also presented as a table and a distribution map with a short review.

稚内市からは3種のコウモリの記録があるが、これまでヒナコウモリ属 *Vespertilio* が確認されたことはなかった(佐藤ほか, 2003)。2011年10月、稚内市中央の市立稚内病院の外壁にいる1個体のコウモリが水戸部誠さん(市立稚内病院)によって撮影され、サロベツ湿原センター経由で筆者にその照会があった。撮影された写真から、本個体はヒナコウモリ属に含まれる個体と考えられたので、ここにその詳細を報告するとともに、北海道北部におけるこれまでのヒナコウモリ属の記録を再整理した。

報告に先立ち、貴重な情報提供をいただいた水戸部誠さん(市立稚内病院)、そして、その照会をいただいた嶋崎暁啓さん(サロベツ・エコ・ネットワーク)、北海道北部のヒナコウモリの記録についてご教示いただいた出羽寛さん(オサラップ・コウモリ研究所)、吉行瑞子さん、遠藤公男さん、英文校閲の Ronald L. Felzer さん(Merritt College, U.S.A) に心から感謝したい。

観察記録

観察されたコウモリは、2011年10月10日に市

立稚内病院の5階北病棟の外壁にいるところを同院看護師の惣万里美さんによって発見された。水戸部さんによると、この場所は地上からおよそ19.3mの高さにあり、この個体は最初に発見された姿勢から特に動くこともなく、10月14日の早朝にはいなくなっていたという。10月13日に撮影された写真によると(図1, 2)、本個体は、厚く幅広い耳介と丸みを帯びた耳珠、根本が黒く先端が明るい茶褐色の体毛などの特徴を持ち、ヒナコウモリ属に含まれる個体と考えられた。本属に含まれる種としては、これまでに北海道内においてヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* とヒメヒナコウモリ *V. murinus* の2種が確認されているが、両種は酷似する上、本件では性別の判定や計測なども行われなかったため、種の同定はできなかった。

なお、外壁のタイルの計測値(高さ72mm)と撮影された個体の写真の比較から、前腕長の推定値を算出すると42-43mmであった。この値はヒメヒナコウモリの範囲に含まれ、これまでの例などから本種飛来の可能性もあるが(Kawai *et al.*, 2010)、実測値ではないため、本報告では参考値としてのみ



図1-2. 市立稚内病院の外壁で観察されたヒナコウモリ属の1種 (2011.x.13, 水戸部 誠さん撮影).

示す.

北海道北部におけるヒナコウモリ属の記録

北海道北部におけるヒナコウモリの記録は佐藤 (2003) によってまとめられたが、その後、ヒメヒナコウモリの発見に関連する変更 (Satô &

Maeda, 2003) や、標本記録および保護記録などの追加があった。そこで、再度、それらの記録をヒナコウモリおよびヒメヒナコウモリの2種については表1にまとめるとともに、士別市以北の記録については分布図として図3にまとめた。なお、筆者らは1992年からかすみ網を用いたコウモリの捕獲調査

表1. 北海道北部におけるヒナコウモリ属の記録

年月日	場所	種	個体数・性別	出典
1966.12.19	士別市	<i>V. sinensis</i>	1 ♀	服部, 1971
1967.7.19	士別市	<i>V. sinensis</i>	2 ♀	服部, 1971
1968.10.23	士別市	<i>V. sinensis</i>	1 ♀	服部, 1971
1974.5.3	東川町	<i>V. sinensis</i>	2 不明	出羽・小菅, 2001
1974.8.2	豊富町稚咲内	<i>V. sinensis</i>	2 ♀	Yoshiyuki, 1989
1975.9.6	旭川市共栄	<i>V. sinensis</i>	1 不明	出羽・小菅, 2001
1976.8.13	東神楽町	<i>V. sinensis</i>	80 不明	出羽・小菅, 2001
1977.9.4	旭川市豊岡1	<i>V. sinensis</i>	1 不明	出羽・小菅, 2001
1977.9.13	旭川市4-7	<i>V. sinensis</i>	1 不明	出羽・小菅, 2001
1980.12.11	旭川市忠和	<i>V. sinensis</i>	1 不明	出羽・小菅, 2001
1983.9.4	旭川市宮下	<i>V. sinensis</i>	1 ♂	出羽・小菅, 2001
1985.11.12	苫前町	<i>V. sinensis</i>	1 不明	出羽・小菅, 2001
1989.11.?	旭川市4条4丁目	<i>V. sinensis</i>	1 ♂	出羽・小菅, 2001
1989.12.10	旭川市近文	<i>V. sinensis</i>	1 不明	出羽・小菅, 2001
1990.11.24	旭川市東旭川	<i>V. sinensis</i>	1 不明	出羽・小菅, 2001
1990.12.25	旭川市豊岡	<i>V. sinensis</i>	1 不明	出羽・小菅, 2001
1996.11.8	旭川市旭山動物園	<i>V. sinensis</i>	1 不明	出羽・小菅, 2001
2000.10.1	小平町大楸	<i>V. sinensis</i>	1 ♂	佐藤・小野, 2000
2001.11.9	旭川市旭岡	<i>V. sinensis</i>	1 不明	出羽, 2001
2002.8.14	旭川市7条7丁目	<i>V. sinensis</i>	1 ♂	出羽, 2002
2002.9.23	礼文町香深	<i>V. murinus</i>	1 ♀	Satô & Maeda, 2003
2003.1.6	旭川市旭山	<i>V. sinensis</i>	1 ♂	出羽, 2005
2003.8.30	羽幌町南4-3	<i>V. sinensis</i>	1 ♂	佐藤, 2004
2005.12.16*	羽幌町市街	<i>V. murinus</i>	1 ♂	Kawai <i>et al.</i> , 2010

*Kawai *et al.* (2010) では12/17であるが、保護施設からの私信によると保護日は12/16であったので本表ではその日付を示した。

を継続しているが（佐藤ほか，2008；佐藤ほか，2011 など），これまでに調査が行われた北海道北部の22市町村においてヒナコウモリ属の捕獲やその具体的な生息情報などを得ることはなかった。

表1によると，ヒナコウモリの旭川以北の記録は決して少なくないが，そのほとんどが単独個体で，8月～12月の記録が多い（図4）。

8月の記録は4例あり，1976年の東神楽町の記録は80頭と一度に確認された個体数が多く，繁殖コロニーの可能性が高いと思われるが，残念ながら性別の記録がなく，その詳細は不明である。2001年の旭川市，2003年の羽幌町の2例は，どちらも1個体のオスの報告である。

北海道南部の倶知安町の繁殖コロニーの調査では，4月下旬からヒナコウモリのメス成獣が集合し，7月上旬に出産，8月中旬からはメス成獣，オス幼獣，メス幼獣の順番で分散を始める，とされている（福井・百年の森ファンクラブコウモリ調査グループ，2001）。北海道北部のヒナコウモリについても仮にこれに従うと考えると，8月が分散開始の時期，1～4月が冬眠時期と考えた場合，北海道北部の8～12月の記録はそのほとんどが分散個体によってもたらされていると考えられた。

なお，1976年の東神楽町の例を除けば，繁殖していた可能性が高い記録としては，1974年8月に豊富町で捕獲された2頭のメス成獣の記録で，これらの個体は授乳中だったという（Yoshiyuki, 1989; 吉行, 私信）。その後，2000年に筆者らによって同町の調査が行われたが，ヒナコウモリ生息の証拠を見つけることはできず，現在も生息しているかどうかは不明である（佐藤ほか，2001）。

ヒメヒナコウモリについては，2002年の礼文島，2005年の羽幌町の2例があり（Satô & Maeda, 2003; Kawai *et al.*, 2010），これらは全て単独個体で9月，12月の保護であることから，分散移動個体と考えられる。

このように道北北部におけるヒナコウモリ属の記録のほとんどは両種において8～12月の期間が多く，単独個体が大半を占め，夏の繁殖時期の記録がほとんどない。そのため，本地域で確認されたヒナ

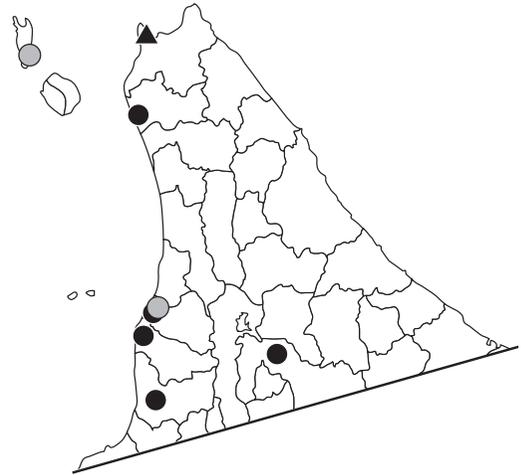


図3. 士別市以北のヒナコウモリ属の記録の分布。●はヒナコウモリ，●はヒメヒナコウモリ，▲は本観察記録。

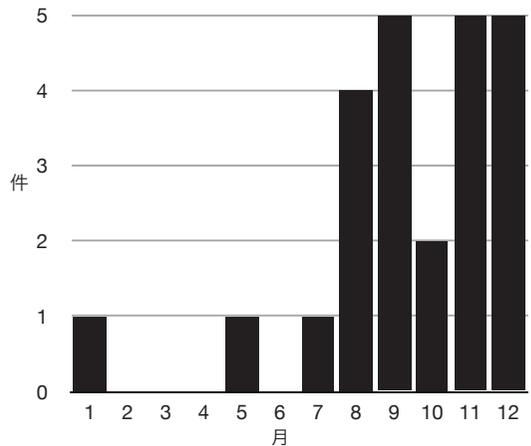


図4. 北海道北部におけるヒナコウモリ属の月別記録件数。

コウモリ属は繁殖地などの夏のねぐらから越冬地に向かう分散移動個体である可能性が高いと思われた。

また図3から，その発見地点は両種とも日本海側の沿岸部に多いことがわかる。これらの地域には市街地が広がり，人間の眼に野生動物が触れやすいことも原因の一つとして考えられた。しかし，沿岸部自体がコウモリの移動ルートや目的地となっている可能性もある。ヒナコウモリ属は長距離の移動を行うことが知られている（Masing, 1989）。ヨーロッパにおけるヒメヒナコウモリの標識調査では，繁殖

地から南西方向に南下することが多いことや、それ以外の南下の例、時には海をも越えるほどの長距離を移動する例も報告されている (Hutterer *et al.*, 2005). そのため、国外から北海道北部に南下してきている可能性も否定できない。ヒナコウモリは台湾も含む中国の東側、そして極東地域にも分布し (Horáček, 1997; Smith & Xie, 2008), ヒメヒナコウモリも韓国, 中国北部, シベリアに分布している (Dietz *et al.*, 2009; Smith & Xie, 2008).

北海道北部の日本海側で点々と確認されるこれら *Vespertilio* 属の個体がどこから来ているのかは現時点では不明であるが、今後の標識調査などの成果のほか、更に多くの地域での発見に期待したい。

参考文献

- 出羽 寛, 2001. 旭川地方におけるコウモリ類 II. 旭川大学地域研究所年報, (24): 79-90.
- 出羽 寛, 2002. 北海道・道北南部のコウモリ類の分布と生息環境. 旭川大学紀要, 54: 31-56.
- 出羽 寛, 2005. 旭川地方のコウモリ類 III. 旭川大学紀要, 59: 23-44.
- 出羽 寛・小菅正夫, 2001. 旭川地方におけるコウモリ類. 旭川市博物館研究報告, (7): 31-38.
- Dietz, C., O. v. Helversen & D. Nill, 2009. *Bats of Britain, Europe and Northwest Africa*. A & C Black. London. 400pp.
- 福井 大・百年の森ファンクラブコウモリ調査グループ, 2001. 羊蹄山・ニセコ山系地区翼手類調査報告 (2) - 倶知安町百年の森周辺におけるヒナコウモリの季節的動態 -. 小樽市博物館紀要, (14): 133-138.
- 服部睦作, 1971. 北海道産翼手目に関する研究. 北海道立衛生研究所報, (21): 68-99.
- Horáček, I., 1997. Status of *Vesperus sinensis* Peters, 1880 and remarks on the genus *Vespertilio*. *Vespertilio*, 2: 59-72.
- Hutterer, R., T. Ivanova, C. Meyer-Cords and L. Rodrigues, 2005. *Bat Migrations in Europe*. Bundesamt für Naturschutz. Bonn. 162pp.
- Kawai, K., D. Fukui, M. Satô, M. Harada & K. Maeda, 2010. *Vespertilio murinus* Linnaeus, 1758 confirmed in Japan from morphology and mitochondrial DNA. *Acta Chiropterologica*, 12(2): 463-470.
- Masing, M., 1989. A long-distance flight of *Vespertilio murinus* from Estonia. *Myotis*, 27: 147-150.
- 佐藤雅彦, 2003. 道北北部におけるヒナコウモリの記録. 利尻研究, (22): 33-40.
- Satô, M. & K. Maeda, 2003. First record of *Vespertilio murinus* Linnaeus, 1758 (Vespertilionidae, Chiroptera) from Japan. *Bulletin of the Asian Bat Research Institute*, (3): 10-14.
- 佐藤雅彦・前田喜四雄・赤澤 泰, 2001. 豊富町と幌延町におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (20): 23-28.
- 佐藤雅彦・美土路建・疋田英子・前田喜四雄, 2003. 稚内市におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (22): 13-22.
- 佐藤雅彦・村山良子・前田喜四雄・出羽 寛, 2008. 美深町におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (27): 27-32.
- 佐藤雅彦・村山良子・出羽 寛・福井 大・佐藤里恵・清水省吾・村山美波・前田喜四雄, 2011. 音威子府村におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (30): 35-44.
- 佐藤美穂子, 2004. ヒナコウモリ, 北海道苫前郡羽幌町での初記録. コウモリ通信, 12(1): 3-4.
- Smith, A. T. & Y. Xie, 2008. *A Guide to the Mammals of China*. Princeton University Press. 576pp.
- Yoshiyuki, A., 1989. Systematic Study of the Japanese Chiroptera. *National Science Museum monographs*, 7: 1-242.